

渡島の現況

2023



渡島の由来

道南の地には古くから倭人が渡って来ていましたが、鎌倉時代から南北朝、室町時代になると、戦乱や飢饉などから逃れて渡来するものが多くなり、また、奥羽、北陸地方の漁民などに未開の新地として注目されるようになりました。これらの人々を当時、渡り党(島)と称し、渡島(おしま)の名もそこから始まったと言われます。

明治2年、松浦武四郎は北海道の国郡名の案を考えて建議書を提出し、同年の11国86郡設置のおり、当地は「渡島国」と名づけられました。

INDEX

■ 渡島のすがた	
地勢・気候・人口	1
■ 渡島の交通	
道路	2
港湾・空港	3
鉄道～北海道新幹線～	4
■ 渡島の産業	
農業	5
水産業	6
林業・木材産業	7
商工業	8
観光	9
■ 渡島の暮らし	
環境保全・自然環境・生活	10
保健・医療	11
社会福祉	12
■ 渡島の教育・文化	13
■ 渡島の国際交流	14
■ 渡島の防災	15
■ 渡島の市町村	
函館市・北斗市	16
松前町・福島町	17
知内町・木古内町	18
七飯町・鹿部町	19
森町・八雲町	20
長万部町	21
■ 青函交流	22
■ 渡島の北海道遺産	23

□表紙写真【史跡「大船遺跡」】

この大船遺跡は、令和3年7月に北海道で初めて世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する資産の一つです。

渡島総合振興局では、地元住民の方々はもちろんのこと、観光客の方々にも縄文の魅力や素晴らしさを知っていただくとともに、この地域の貴重な財産を次世代に継承していくため、様々な取組を行っています。

□裏表紙【「持続可能な開発目標(SDGs(エスディーゼーズ))」】

2015年9月、国連サミットにおいて、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17のゴール(目標)と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標(SDGs)」が掲げられました。

SDGsは、2030年までに先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の目標です。



北海道新幹線つなげる応援大使

どこでもユキちゃん